

川上ダム地質現地説明会結果報告(1)

年月日	平成 20 年 9 月 21 日 (日)	時 間	13:00 ~ 16:30
場 所	説 明 会：独立行政法人水資源機構川上ダム建設所ふれあいホール 現地観察：川上ダム予定地上流周辺		
参加者	住民参加者：5 名 行政関係者：1 名 報道関係者：4 名(アドバンスコープ(CATV)、伊和新聞、中日新聞、読売新聞 五十音順) 計 10 名		
主催者	独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所 (説明補助) 地質コンサルタント：(株)アイ・エヌ・エー、日本物理探査(株)		
添 付 資 料	1. 配付資料(川上ダム地質現地説明会パワーポイント、現地観察ルートマップ) 2. 開催状況写真集 3. 地中レーダー探査結果報告書		
実 施 概 要	<p>1. 全体説明会 13:00~13:40 水資源機構より川上ダムの第四紀断層調査結果について、「川上ダム建設に影響を及ぼす第四紀断層はダム敷近傍に存在しない」ことを説明した。また、地質コンサルタントより平成 13 年度の「右岸鞍部地質調査業務報告書」の地質平面図について、(1)実線は崖錐堆積物を切っていることを意味しないこと(2)現地調査においても崖錐堆積物を切っていることは確認されないことを説明した。</p> <p>2. 現地観察 13:50~15:30 ダムサイト上流右岸鞍部で地中レーダー探査状況について説明した後、添付のルートマップのとおり現地観察を実施した。現地観察では、地質コンサルタントより現地の地質を解説し、全員で(1)右岸鞍部の露頭断層の破砕部が固結し古いものであること、(2)「雁行型の裂罅」など崖錐堆積物を地中の断層が切っており活断層であることを示すような箇所は見受けられないことを確認した。降雨のため前深瀬川上流沿いの地形の連続性の観察は車中から行い、道路工事箇所の法面の観察は安全確保の観点から参加者の合意のもと省略し事務所に戻った。</p> <p>3. コア観察 15:30~15:40 平成 19 年度に実施したダムサイト上流右岸鞍部の斜めボーリングのコアについて観察した。地質コンサルタントよりコアを解説し、(1)基盤岩は固いこと、(2)断層破砕部が約 30cm 程度の小規模で固結したものであることを確認した。</p> <p>4. 現地観察説明会 15:40~16:30 全体説明会および現地観察結果を踏まえて、「ダムサイト上流右岸鞍部をとる断層は活断層ではない」ことを説明した。</p> <p>5. 主な質疑応答 (質) 線状模様について、S62 の報告書で判読したものが、今の報告書では線状模様として判読しないといったことは何が変わったのか。 (答) 線状模様の判読の仕方は阪神淡路大震災以降研究が進んだ。2002 年に国の土木研究所から基準が公表されているが、その前 4 年間かけて土木研究所とコンサルタントで空中写真の判読の仕方について共同研究を実施している。S62 に実施した報告書は古い読み方で実施したものであり、以降読み方が変化している。(地質コンサルタント 答) (質) 過去の報告書の地質図に実線で描いたものについて、本日、そうではないといていたが、そんなに曖昧なものなのか。描いたことについて責任があるのではないか。 (答) 弾性波調査と断層露頭の調査の結果から断層は存在するといった意味で実線を引いる。しかし決して崖錐堆積物を切っているといった意味で引いてはいない。(地質コンサルタント 答)</p>		

川上ダム地質現地説明会結果報告(2)

質) 誰が配布したかわからないが、新聞に川上ダムに活断層が存在すると主張するチラシが入っていた。チラシを出した方が出席しているかどうかはわからないが、もし欠席しているなら欠席している理由書を(水機構から)出させてほしい。地域に無断で出されるのは許し難い。

答) 水機構が間に入って対応するのは難しいが、今回の説明会でそのようなご意見があったことは結果報告に記録しておく。

質) ダム湖周辺についてもしっかりと地すべり等の調査をしてほしい。

答) これまで調査は実施してきている。今後とも地元住民の皆様に対してしっかりと説明させていただく。

6. 参加者の感想等

- ・地質は専門家でないと難しい面があるが、事業者が一生懸命真摯に対応している姿勢はわかった。
- ・第四紀断層調査および右岸鞍部は十分に調査がなされていることがわかった。
- ・活断層はないことは了解した。

実
施
概
要